

# 扉とびら

2017年4月1日発行

発行 広報委員会

東芝病院 〒140-8522

東京都品川区東大井6丁目3番22号

TEL (03) 3764-0511 FAX (03) 3764-3415

<http://www.toshiba.co.jp/hospital/>

題字 金井 弘一

66

PULSE

## 若い医師をみんなで育てる ～基幹型臨床研修病院として

副院長 井石 秀明



東芝病院はこの4月から新たに「基幹型の臨床研修病院」として独自の研修プログラムを組んで「若い医師」を育成していくことになりました。

平成16年度から国の政策として新たな医師臨床研修制度が制定され、医師は国家試験合格後に厚労省の指定する「臨床研修病院」で2年間の研修を受けなければならないことになりました。その目的は、研修を通じて医師としての人格を涵養し、幅広い基本的診療能力の修得させることにあります。

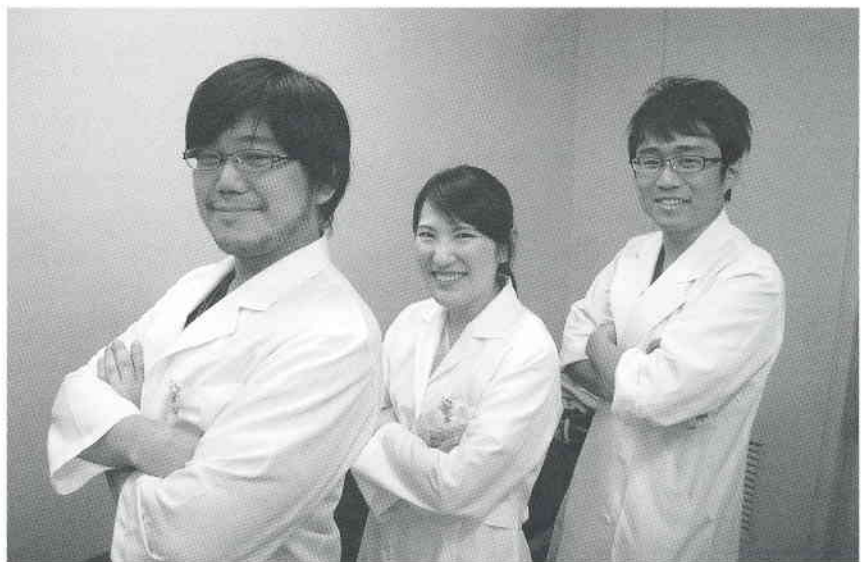
当院はこれまでも東京大学医学部附属病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、東邦大学医療センターの「協力型」臨床研修病院として毎年3～4人の初期研修医（医学部卒業後1～2年目の医師）の研修に協力してきましたが、今後は当院も主体となって一人前の医師を育てていくことになります。以前より各大学病院や研修医からは基幹型の研修病院へのステップ・アップの要望が強かったのですが、救急指定病院としての実績が

必要でしたのでようやく昨年申請、承認され、本年度から基幹型臨床研修病院としてスタートすることになりました。幸い協力型病院としてつちかってきた研修指導の実績と総勢19名の臨床研修指導医を中心とした知識・経験・実践ともに豊富な上級医師をもって研修医、患者様共々に安心かつ最新・最善の医療をおとどけしたいと思えます。とりあえず初年度は今までどおりの東京大学、東京医科歯科大学からの4名に当院所属の2名を加えた計6名の初期研修医を研修

指導していくこととなります。

医師不足が叫ばれるなか、優秀な臨床医を育てることは医療界のみならず社会の急務となっています。将来の医療（といってもほんの5～10年先のことです！）の質を確保することは、先の世代のみならずご自身の健康維持のためにも必須のことです。東芝病院としても地域・職域の医療に貢献していくため研修医を指導し、優秀な医師を育成していく所存ではございますが、患者・ご家族のみならずにおかれましても医師育成の必要性、臨床研修制度の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけたら幸いです。

なお、臨床研修制度においては地域医療の実習も重要な研修科目となっております。そこで、地域の開業医の先生方をお願いしてその臨床現場でも修練を積ませることになっていきますので、その節も何卒よろしくお願いいたします。



1年の研修を終え、半人前(?)となった平成28年度臨床研修医の先生たち

## ナース通信

# 1年 がんばりました！



### 4階北病棟 眞栄田 恵美

1年間先輩達のサポートを受け、患者さんには励ましの言葉を頂きながら頑張ってきました。この1年でできるようになったことがたくさんあり、看護師として働く楽しさを感じながら仕事をしています。まだまだ分からないこともあり、勉強を重ね成長していきたいです。



### 4階南病棟 伊藤 秋穂

まだまだ気付く力が不足しているため、今は患者さんの状態を観察して先輩たちに相談できるように練習中です。基本を忘れずに2年日も一步一步確実に成長していけるように頑張ります。



### 4階南病棟 谷口 友香

この1年、患者さんが安楽に感じるよう丁寧にケアや処置をするよう心がけました。また、患者さんの疾患や病態に応じた学習を活かして根拠のある看護を実践できるように努力してきたので、これからも日々学習を積み重ねていきたいです！



### 5階北病棟 栗岩 玲奈

最初のころは職場に慣れることで精一杯で、仕事が終わってロッカーを開くたびに“明日もこの緊張感に襲われるのか”と思っていた時期もありました。先輩方に「わからないことは聞いてね」と声をかけて頂いたおかげで少しずつ余裕も生まれ、一人でやることも増えてきました。看護師として未熟な点が多いですが、自分自身が目指す看護師になれるよう精進していきたいと思います。



### 5階北病棟 後藤 俊樹

看護師として新しい環境に置かれ、初めてのことであり不安な1年でした。しかし、忙しい中5階北病棟のスタッフの皆様にご厚いフォローやご指導を頂き、日々成長を実感しています。今後は2年目として自身の看護を深めていくとともに、新人看護師に活気ある5階北病棟の良さを伝えていきたいと思っています。



### 5階南病棟 平柳 百香

清潔ケアなども最初は手際よくできず、忘れ物をして取りに行ったり清潔不潔の区別がつかなかったり、手際よくできず時間がかかり、1人で十分に出来ませんでした。しかし、今はやっと要領を掴めたのか前より手際よく出来るようになりました。



### 5階南病棟 佐藤 里咲

体調を崩すこともありましたが、毎日楽しく、日々の勤務を通して、様々な経験を得ることができました。チームのメンバーとして仕事を与えてもらえる機会も増えてきたので、より一層気を引き締めて、来年度も楽しく笑顔で毎日頑張ります。よろしくお願ひします。

## 一筆啓上

職員のリレーでつなくショート・エッセイ



## あたたかいバリへ

3階南病棟 金丸 幸子

今年の2月は東京でも雪が降る寒い日が多くありました。そんな中、半袖にサングラスをかけて常夏のバリ島へ行ってきました。今回の旅行は姉の結婚式をかねていて、時期は雨季ということで、大雨の中始まった結婚式でしたが、撮影会は晴れ間をぬって行い無事に終了しました。その後は、プールに海にマッサージにエステ三昧と、姉夫婦の計画してくれたプランでのんびりゆったりとバカンスを楽しむことができました。私はこの旅行で、インドネシア人の温かい国民性に触れることができました。空港内で道に迷ったときに声をかけてくれた掃除のおばさん、コンビニでバリ紙幣になれない私を助けてくれたお兄さん、プールではしゃぎすぎて腰を痛めた父を背負って階段を上ってくれたボーイさん、そして、野良犬を可愛がる町の人たち。バリには多くの野良犬がいるのですが、多くがやさしい目をした犬たちで、こちらに近づいて餌をねだるわけでもなく、犬同士でじゃれあったり、昼寝をしたりしていました。きっと彼らは温かい気候と優しい人たちに囲まれてのんびり生きているのだと思いました。バリはフルーツのおいしい常夏の島、そして人のあたたかい島でした。



## 姉妹

6階北病棟 高瀬 沙恵

先日、長期休暇を利用し姉夫婦の済む韓国へ行きました。昨年11月に姪が生まれ、姉は初めての育児に疲れており私が行くのを楽しみにしてくれていました。滞在中は、姉の住む利川（イチョン）のマンション周辺で過ごし、姪の定期受診の為ソウルの総合病院に付添ったり、姉の友人に会ったり、市内観光をしたり、伝統的な韓国の生活が知れる公園に連れて行ってもらったりしました。マンションに居る時は、姉に韓国料理を教わったり、日本でよく食べていたものを作ってあげたり、姪のミルクやりやおむつ交換、入浴の手伝いをしました。仕事では高齢の患者さんの介助をしていますが、対象年齢が全く違う為、新鮮な気持ちになりました。また育児に追われる姉の為に、姪が生まれてからの写真をフォトアルバムにしてプレゼントしました。姪が生まれてから姉は、「自分の事は何も出来ない」といらついでしまったり、育児への大変さを口にしたりしていましたが、フォトアルバムを一枚一枚見ながら我が子を可愛いと連呼して笑顔になっていました。今回韓国に滞在して姉の送る日常生活を側で感じ、異国での生活習慣の違いで苦悩しながらも頑張っている姿をみて、「姉は強いなあ」と改めて実感しました。4月の1ヵ月間は姪を連れて実家に戻るので、その間はまた育児の手伝いや姉といろいろ話をしたいと思います。



## 世界自然遺産 ～屋久島～

栄養部 加藤 真理子

昨年9月に休暇をいただき屋久島に旅行しました。白谷雲水峡・縄文杉へのトレッキング、永田いなか浜散策、リバーカヤック等大自然を満喫できる旅でした。白谷雲水峡は往復約6キロ、約6時間かけて歩きます。歩くにつれて全身が緑に包まれたように感じられるほど木々や岩が苔むした森、途中いくつもの沢を渡り杉の根をくぐり抜け、太鼓岩にたどり付くと天候に恵まれれば絶景を楽しめます。まさに、心洗われる神秘的な森でした。あの有名な映画「もののけ姫」の中でも描かれ、宮崎駿監督が何度も訪れてイメージを膨らませたそうです。縄文杉へは往復約22キロ、約10時間以上のコースです。樹齢7200年と言われる縄文杉、その存在感は素晴らしいものでした。途中、溪流や樹齢1000年以上の立派な屋久杉に出会えます。水の豊かな森で湧き水をくめる場所もあり、味わいはとてもまろやかです。野生動物も多く、私の行った日はヤクザルの親子に遭遇しました。ウミガメの産卵地である永田いなか浜は長い白浜と美しい海を眺めることができる一押し場所です。今度は桜の季節に出かけてみたいと思っています。皆様もぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。

## 診察室より

## メニエール病



耳鼻咽喉科 進藤 彰人

## &lt;はじめに&gt;

耳鼻咽喉科の外来では、のどの痛みや花粉症などとともに、めまいの症状で受診される方が多いです。めまいの症状の原因としては加齢による影響の他に、体のバランスを司る三半規管や前庭神経の機能が障害されたときに起きることが多いです。今回は、外来で特にご質問の多いメニエール病についてご説明いたしたいと思います。

## &lt;病態&gt;

メニエール病は回転するようなめまい、難聴、耳鳴りなどの症状を繰り返す病気のことです。男性は40歳代、女性は30歳代に多いとされています。発作のきっかけとして、精神的・肉体的な疲労や睡眠不足であることのほかに、神経質だったり几帳面だったりする性格の方に多いです。めまいの病気として比較的良好に知られている割には実際にこの病気になる人は少なく、人口10万人に対して16人程度といわれています。

## &lt;原因&gt;

メニエール病の原因は内耳というところにあるといわれています。耳のなかには、外耳・中耳・内耳という部分に分けられています。耳垢がたまるところが外耳、鼓膜の奥の空間が中耳、中耳の奥にある骨の部分が内耳といわれています。内耳という部分には聴力のほかに三半規管や前庭神経といったバランスを司る重要な部分があり、脳とつながっていて水で満たされています。メニエール病は内耳に何かしらの原因で水が溜まりすぎることによって発症するといわれています。

## &lt;検査&gt;

メニエール病は、めまい・難聴・耳鳴りの症状を繰り返すことが特徴的です。検査では一般的に聴力検査を行って、メニエール病に特徴的である低い音の聞こえの悪さがいないか確認します。メニエール病では発作が起きているときには聞こえがわるくなり、発作が治まると聞こえが戻ります。しかし、この発作を繰り返し続けると聴力が戻らず、難聴の原因と

なることがあります。まためまいの発作があるときには、眼振といって目が振れるように動きます。目の動きをみる専用の器材で眼振を確認することでめまいの程度を確認できます。

## &lt;治療&gt;

メニエール病の発作が起きた時には激しいめまいにより、気分が悪くなって嘔吐することもあります。症状が強い場合には安静のうえ、点滴を行います。症状が改善してくれば、内服に切り替えていきます。内服にはめまいの症状を改善する薬のほか、内耳に溜まった水を減らせる薬を併用することもあります。

メニエール病の治療では、治癒を目指すというよりは病気の発症のコントロールをするようにします。現代の医学をもってしても、メニエール病を治癒させることが困難であるからです。そのためには、薬のほかに、ストレスや不眠を回避すること、過労をさげたりすることなども重要です。

## &lt;予後&gt;

メニエール病は発作を繰り返すことが特徴の病気です。最初のうちは発症しても聴力は戻りますが、長期にわたって繰り返すことで難聴が進行していくこともあります。その場合でも全く聞こえなくなるということはありませんが、発症を起こさないようにすることで難聴を予防することが大事です。

